

第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画 評価表（令和5年度下半期）

1 地域包括ケアシステムの深化・推進

(5) 高齢者の住まいの安定的な確保

評価項目	分野	年間目標値	上半期実績値	下半期実績値	年間実績値	達成度
⑩居住支援協議会を通じた住まいに関する相談件数とマッチング件数 ※年間合計	介護 住まい	50% (*)	47% (9/19件)	63% (5/8件)	52% (14/27件)	A
目標値は達成。不動産業や基幹型地域包括支援センターと連携し、住宅要配慮者の方への住居から生活面でも支援を進めている。1月末に居住支援セミナーを開催し、弁護士から適切なアドバイスをいただくことができた。						
⑪居住支援ケース検討会議開催数 ※年間合計	介護 住まい	5回	2回	3回	5回	A
目標値は達成。スムーズに各支援機関と連携を取ることができるようになり、困難な事例にも対応することができた。死亡時の遺品整理等は大きな課題となっている。						
⑫介護サービス相談員派遣回数 (施設サービス) ※年間合計	介護	18回	16回	23回	39回	A
目標値は達成。訪問した相談員の意見等をまとめ、事業所へ報告している。また、事業所との意見交換等も行えた。						

(*) 令和4年度下半期から目標値修正

⑩年間目標値 80%→50%

- A 達成できた
- B おおむね達成できた
- C あまり達成できなかった
- D 達成できなかった

総合評価

A

担当部署評価

各事業において、目標値を達成。居住支援事業について、各支援機関と連携を取りながら困難な事例に対応することができた。また、その後の生活についても長期的なサポートを行っている。介護サービス相談員派遣事業について、事業所との意見交換も行っている。引き続き、高齢者の住まいの確保と生活の一体的な支援に努めていく。

(評価委員会評価は裏面に記載)

評価委員会評価

介護サービス相談員派遣回数において、実績値がかなり伸びていることは評価できる。しかし、一か月に2回各事業所に赴き、相談員2人、一年間に10か月派遣するため、年間で最大40回派遣することができる体制から考えると、令和2年の実績値12回を基準値とし年間目標値18回では目標値設定根拠がずれてしまう。第9期計画策定にあたり、評価指標の目標値の設定根拠についてしっかりと検討し、目標値が適正なものとなるようにしていただきたい。